

会 議 録

会議名	令和6年度第4回京田辺市学校教育審議会
日 時	令和6年12月10日（火）午後6時20分から午後6時45分まで
場 所	京田辺市コミュニティホール
内 容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 今後の審議会の進め方について 4 その他
出席者	（委員） 沖田委員（会長）、河村委員（副会長）、村井委員、塩田委員、今村委員、上原委員、森本委員、宮本委員、大西委員、島谷委員、浅山委員、浦田委員 （事務局）櫛田教育部長、片山教育指導監、古谷教育部副部長、平岡教育総務室担当課長、勝又こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長、濱本教育総務室企画係長、河野教育総務室企画係主任
傍聴者	なし

●議事

(1) 今後の審議会の進め方について

《事務局から資料1に基づき説明》

会 長： ただいま、事務局より説明がありましたが、ご意見等ありましたらお願いします。

委 員： 事前に資料をお送りいただきましたので、読ませていただき、開会前に会長ともお話しさせていただきましたが、やはり学習環境においては、子どもを通じてわかる、聞ける、把握できることは少ないですので、色々と世間では、試行的な学習環境を取り組まれている自治体もありますし、また、先進的な取組として進めておられる自治体や学校もあるかと思いますので、できるだけ負担をかけないような形で、そういう新しいタイプの学習環境を構築しているような学校を見学なり、実際に学ばせてもらい、その中で、メリットや当初予想もしなかった課題もあるでしょうし、幅広く知識を得られるような機会を設けていただけたらありがたいと思います。

事務局： 事務局の方でも、諮問させていただく予定のテーマのスケジュールを作成しているところですが、その中で、おっしゃっていただいた先進地の視察を考えています。また、子どもの意見聴取等の取組も考えておりますので、また提案させていただきたいと考えています。

会 長： よろしく申し上げます。そのほか、いかがでしょうか。

委 員： 基本的な話になりますが、この2年半くらい、偏在の解消に向けた学校配置・学校規模といった大きい話でありました。その審議会の中でも学習環境に関することは、今回の答申を終えたあとに審議していきましょうということだったと思います。次の諮問については、そういった内容、具体的に言えば、書いていますとおり教育の「内容」ではないと思いますが、子どもを取り巻くハード面もそうですし、デジタル系の話を踏まえての審議をしていくという理解でよいでしょうか。

事務局： 委員のおっしゃっていただいた内容のとおりです。

会 長： 私は、10月に中国の大連に行く機会があり、そのときに少しですが学校を見学しました。教科によっては、対面式授業、先生がいて、黒板があつてということではなく、学生がグループで議論する等、教室空間のあり方がだいぶ変わっています。海外視察は難しいですが、こういう情報や多くの資料を調べて、審議していければよいのではないかと。やはり、この問題は、机上で議論するよりも現場で見ていく、子どもの動静といいますか、ここに問題があるのではないかと、総合的に考えなければならぬ問題です。

また、ハードの問題で、答申の概要説明の後に申し添えましたけれども、ICTの持つ負の側面も踏まえながら、それに関する研究も出てきていますので、そういったことをカバーできるような教育環境というものを考えていきたいと思います。

今後は、教育委員会から諮問を受けた後に本格的な審議を開始することになりますが、現委員の任期にともなう交代までに、整理を進めていき、その上で、次期委員に引き継ぐことになると思います。

そういう認識でよろしいでしょうか。

事務局： はい。申し上げます。

会 長： それでは、議論はこれからのため、次回進めていくということとします。そのほか、いかがでしょうか。

委員： さきほど、子どもたちの意見も聴いていきたいという話もありました。前回も子どもたちの意見を聴かせてもらい、私たちが考えてもいないようなアイデアがでてきたり、こういうふうにした方がよいかと思っていたことが意外と違っていたりといったことがありましたので、当事者である子どもたちの意見を聴く必要があると思います。

もう一点として、この審議会の場には小中学校の先生も委員として参画されていますが、先日、幼稚園の先生とお話しさせていただく機会がありまして、子どもたちが幼稚園から小学校へ進学する際に、環境的なことであるとか、幼稚園の先生の意見も参考になる部分があると思いましたので、色々な立場の方の話を聴く機会を設けていただければありがたいと思います。

会長： ありがとうございます。今、幼稚園と小学校の連携は大変重要な課題となっています。幼稚園と学校で一緒に共同するような事業ができれば、また違った展開になってくるかと思います。そのほか、いかがでしょうか。

委員： 資料1の3ページについて、片廊下一文字型の配置やICTについての説明がありました。下段の多様な児童生徒への対応や不登校の問題は、既に教育支援センターでの取組などがあるなかで、こういったことについても、今回の学習環境の整備の審議の対象となるのでしょうか。この項目について、どのような審議を求められているのか、ご説明いただきたい。

事務局： 多様な児童生徒への対応ということで、各学校で特別支援学級に在籍又は通級指導を受ける児童生徒は年々増加しており、通常学級に在籍しながら、通級指導を受ける子どももおられます。そういった方については、持っておられる特性によって、学校内に落ち着けるような空間等が必要であると学校からも伺っておりますし、他の学校によっては、そういう部屋を作って、落ち着かせてから教室に戻るということをしている場合もあります。

また、医療的ケアも、ケアの内容によっては、配慮しながら医療的ケアを実施しなければならず、教室の中ではできない、あるいは保健室とは別に空間を設けなければならないといったことも考えられるということで、そういった点についてもご審議いただきたいと考えています。

不登校のところにつきましては、中1ギャップにつきましては、今、全国的に広がっている小中一貫教育も絡んだ話になってくるかもしれ

ません。また、教育支援センターは答申に基づいて設置をさせていただきましたが、これは駅前のC I Kビルにあります。学校内で教室には行けないけれども、学校の別室には行ける、いわば校内教育支援センター的なものを、本市の小中学校でも1校ずつ置いている学校があります。この校内教育支援センターといったようなものについての必要性についても、ご審議いただければということでこの2つの項目を記載させていただいているものです。

会 長： 我々が行う議論においては、校内教育支援センターであるとか、様々なものの形をどう考えるかということでもあります。これらについても、できれば現場を見学した上で、問題点も考えて具体的な方向性を議論することになります。

会 長： 以上でよろしいでしょうか。ただいま出てきた内容も踏まえて、諮問書を受けてから、本格的に議論をしていくこととなります。

事務局： なかなかイメージがつきにくいかもしれませんが、資料1の1ページ中ほどに書いてます学校施設長寿命化計画ですが、これは学校施設の延命措置を取るなどして長持ちさせようというものであり、同時に必要などころについては建替することになってくると思いますが、こういう計画は既にあります。これを令和8年度に向けて、令和7年度に改定作業を行ってまいりますので、本日答申いただいた内容とこれから諮問をさせていただきたいと思っている内容を踏まえた中身で、財政的な面も考慮したうえで、計画を改定していきたいと考えています。より効率的な改修ができるようにしていきたいという思いで、次の諮問の話をさせていただいております。

その上で、新しい学習環境というものは、我々も具体的なイメージは中々つきませんが、その辺につきましては、具体的な例示と実際の場所をみていただいて、できるかぎりの資料をご用意する中で、ご審議をさせていただき、具体化していただければと思っております。

●その他

《無し》

(以上)